

郵便  
報知新聞  
第五百八十九号

本郷者木町る經師屋次郎ハ養老をんか  
同職書三郎とる者ヤ賀ふらり老行末と  
樂じか此喜三郎ハ生得慳貪はて常に鼻  
姑の意ハ忤ひ妻をんら朝夕喧嘩のこゑ  
きれば擾みく十田の手切金と遺し荷  
物残らば引とじて其家と出せし喜哀  
未煉ももん女み執心とのに二月十日の  
夜其家の寐静と窺ひ忍び入て用意の  
九寸五分と以て仰向ふ町るをん口中  
より領一ノ弁と刺透せし阿と下声  
叫びもあへむ其依息絶えらる此物首  
に目醒る老父踢起さるに曲者と引組で  
押伏せらる同み妻も声揚呼りりりり  
巡查も速に馳来り早くも繩をかける  
とらる

真恵郎演栗記



大福堂  
彫  
金寶堂